

# 教育だより

発行: 芦別市教育委員会学務課

☎0124-22-2111

目次	1面	『地域とともにある学校づくり』へ向けての取組み
	2面	『いじめ』のない社会を目指して、ネット利用アンケート結果について
	3面	芦別市が目指す小中一貫教育～各中学校区での活動内容
	4面	全国学力・学習状況調査結果の概要、学力を高めるための取組み

## 『地域とともにある学校づくり』へ向けての取組み

平成31年度に導入を予定している『コミュニティ・スクール(学校運営協議会)』について、前回の『教育だより』では『どのような仕組みなのか』『役割は何なのか』『どんな組織を作るのか』など概要を説明させていただきました。その後、導入に向けての準備として、先進地視察、市内各関係団体への説明、市内各小中学校の校長先生方との意見交換、教職員対象の研修会などを行ってきたところです。

先進地視察としては、空知管内の三笠市・栗山町、石狩管内の北広島市、胆振管内の安平町を訪問し、それぞれの地域で行われている活動について学ぶことができました。三笠市においては10月12日、全国コミュニティ・スクール研究大会が開催されますので参加する予定です。今年4月1日現在、空知管内では三笠市・栗山町をはじめとして、岩見沢市・美唄市・夕張市・浦臼町・新十津川町・雨竜町が導入しています。

今年度に入り、町内会連合会、PTA連合会、青年会議所など多くの市内各関係団体の会議に出席し、説明をさせていただきました。貴重な時間をいただきましたことにこの場をお借りしてですが感謝申し上げます。

コミュニティ・スクールの活動の主体は学校ですので、夏季休業中には文部科学省のCS(コミュニティ・スクール)マイスター派遣事業を活用して北海道科学大学教授の出口寿久氏を講師にお招きして、教職員を対象とした研修会を行いました。コミュニティ・スクールを核とした地方創生、制度導入の背景、仕組みと現状、成果と課題、今後の方向性などについてご講演があり、多くのご示唆をいただきました。

今後、本市でも平成31年度導入に向けての準備を加速していく予定です。

- ① コミュニティ・スクール準備委員会の立ち上げ
- ② 市民の方を対象とした説明会
- ③ 学校やPTA、地域の方との協議

などを計画しています。



『芦別が好きだという郷土愛を育てることが、子どもたちが将来戻ってくることに繋がる』という、先日の講演会の講師の先生の言葉を大切に、コミュニティ・スクール導入を進めていきたいと考えております。

今後とも、地域・保護者・学校がさらに協働して、本市の子どもたちの成長のためにご尽力ご指導いただきますよう、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

## 『いじめ』のない社会を目指して

『いじめ』をなくすために、平成27年に策定した「芦別市いじめ防止基本方針」を、国・道の改定に伴い見直しました。大きな変更点は、以下の2点です。

### 1 『いじめの定義』について

「いじめ」とは、児童生徒と一定の人間関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）で、その行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているものをいいます。

※『いじめ』とは「在籍する学校内における児童生徒間」に限定していましたが、少年団活動など、学校外の活動におけるトラブルもあることから、より幅広くとらえることとしました。

### 2 『いじめの解消』について

いじめが解消したか否かについては謝罪をもって安易に解消したと判断せず、次の要件が満たされている場合とします。

- ① いじめに係る行為が止んでいること（少なくとも3か月を目安）
- ② 被害児童生徒が、心身の苦痛を感じていないこと



※『いじめの解消』については、謝罪し、和解した時点で解決したと判断しがちですが、再燃することが少なくありません。そこで、和解後の見守りが必要であるということで、その期間の目安と判断基準を追加することとしました。

「いじめはいけないことだ」と誰もが思っています。でも、なくすことは難しいのです。では、どうしたらいいのでしょうか。嫌なことを言われたり、されたりしたときには、勇気をもって自分の気持ちを相手に伝えましょう。気持ちが伝わることで、繰り返されることはなくなっていきます。ひとりでは心細いのであれば、友だち、家族、先生の力を借りましょう。ひとりひとりが成長し「いじめ」のない社会を作っていきましょう。

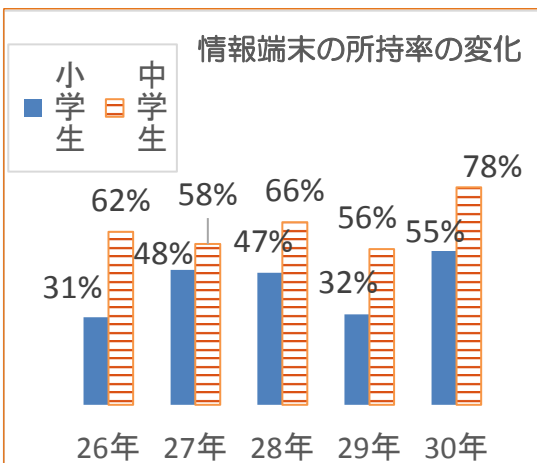
## ネット利用アンケート結果について

情報端末(スマートフォン・タブレットなど)の進化により、いつでもどこにいても世界とつながり、情報を受取り・発信ができるようになりました。

市内の小5～中3を対象にネット利用に関するアンケートを毎年実施していますが、その中でも変化が見られます。情報端末の所持率が上がり、小学生が55%、中学生が78%となりました。

では、どのようなことに使っているかという点、ゲームを抜いて、動画の閲覧が1位でした。面白い動画を次々と見ているとあっという間に時間が過ぎてしまうためか、3時間以上という子どもの割合が高くなっています。平成26年度のアンケートではネット利用者202人中、3時間以上ネットを利用する人は17名で全体の1割に満たない人数でしたが、今年度ではネット利用者309人中、3時間以上利用する人が84名となり全体の3割近くまで増加しています。

また、ネット利用の課題も変化しています。今年は、インターネットなどへの書き込みによる被害を訴える子どもが増加していることから、次の3点に注意しながらインターネットを利用しましょう。



- ① インターネットを利用する時も、ルールとマナーを守りましょう
- ② インターネット上には誤った情報もあるので、十分注意しましょう
- ③ 会える人とは直接会って話しましょう



芦別市では、昨年「スマホルール」を作成し、各家庭でのルール作りを呼び掛けています。その中では、夜の9時以降の使用は控えること、また、一日の利用時間は1時間以内にしようと呼びかけています。各家庭でもお子さんと一緒に、「スマホルール」について話し合ってみましょう。

## 芦別市が目指す小中一貫教育～各中学校区での活動内容

本市では今年度、義務教育9年間で、『地域～郷土に愛着をもつ子ども』『知～進んで学習に取り組む子ども』『徳～豊かな心をはぐくむ子ども』『体～たくましく健やかな体をはぐくむ子ども』を育てていこうと、『芦別市小中一貫教育協議会』の活動をスタートしました。4月から、芦別中学校区(芦別小学校、芦別中学校)と啓成中学校区(上芦別小学校、啓成中学校)、二つの中学校区毎に具体的な取組みを進めていますので紹介します。

### 芦別中学校区

- ① 小中学校の授業参観・交流～2校の教職員が相互に授業参観を行った後、話し合いの時間をもち交流します。(年2回 7月、2月)
- ② 小学校への乗り入れ授業の実施～中学校の英語の先生が小学校へ行き、高学年の英語の勉強を、担任やALT(英語指導助手)と一緒に指導します。
- ③ 芦別中学校区の目指す子ども像の共有
- ④ 9年間をつないだ学習のきまり、家庭学習の仕方、生活のきまりの策定
- ⑤ 芦別中学校入学説明会の実施～12月7日(金)5・6校時に行います。  
6年生の児童と保護者が芦別中学校を訪問し、授業参観をしたり、説明を受けたりします。オリエンテーションには生徒会の役員も参加し、小学生と中学生が交流の時間をもちます。新しい環境での勉強や生活に少しでも触れて中1ギャップの未然防止を図る取組みの一環です。

7月に芦別中学校で行われた、「芦中参観・交流」で芦小の先生たちが授業を参観している様子。2月には「芦小参観・交流」が行われ、芦小への乗り入れ授業も予定しています。



6月に啓成中学校で行われた、「芦別市小中一貫教育協議会 啓成中学校区部会」の中で、上小の先生たちが授業を参観している様子。

### 啓成中学校区

- ① 総合的な学習の時間、旅行行事等の小中学校の実態のまとめ。
- ② スポーツを親しむ日の実施～12月26日(水)・27日(木)に行います。中学生が小学校を訪問し、バレーボール、バスケットボールなどの部活動の体験を小学生と一緒にいきます。
- ③ 小中学校の授業参観・交流～2校の教職員が相互に授業参観を行った後、話し合いの時間をもち交流します。(年2回 6月、11月)
- ④ 連携だよりの発行
- ⑤ 啓成中学校新入生説明会の実施～1月18日(金)5・6校時に行います。  
(説明会の内容は芦別中学校区と同じです)



### 保護者・地域の皆さまへ

教育だよりは、本市の学校教育の現状や課題、さまざまな政策や取組などを広く市民の皆さんに知っていただき、情報を共有化するため今年度より年3回発行いたします。

本市の学校教育の向上に関するご意見を「郵送」、「ファックス」、「電子メール」(様式自由)にてお寄せください。

【送付先】〒075-8711 芦別市北1条東1丁目3番地 芦別市教育委員会学務課学校教育係  
【電話】0124-22-2111 【ファックス】0124-22-9696



# 全国学力・学習状況調査結果の概要

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果が7月31日に

公表され、8月1日に新聞等で発表

されました。

北海道は、今年度実施された理科を含めた小・中学校10教科のうち

2教科で全国を上回り、1教科で同様となり、全体で見ると全国との差を縮めました。

芦別市の結果は表の通りです。残念ながら、昨年度と比べ低い結果となりました。

今後各学校では分析を行い、学校改善プランを作成し、学力向上に取り組みます。なお、各学校の分析結果については、今後市のホームページに掲載する予定です。



		平成29年度		平成30年度	
		全国	北海道	全国	北海道
小学校	国語 A	低い	低い	相当低い	相当低い
	国語 B	ほぼ同様(低い)	同様	やや低い	低い
	算数 A	やや低い	ほぼ同様(低い)	低い	低い
	算数 B	低い	やや低い	相当低い	相当低い
	理科	未実施		同様	ほぼ同様(高い)
中学校	国語 A	やや低い	やや低い	低い	低い
	国語 B	低い	低い	相当低い	相当低い
	数学 A	低い	低い	相当低い	相当低い
	数学 B	相当低い	相当低い	相当低い	相当低い
	理科	未実施		低い	低い

\*\*\* 基準～全国・北海道の正答率との差 \*\*\*

- ◇同様→1±ポイント未満
- ◇ほぼ同様(高い・低い)→±1～3未満
- ◇やや高い(やや低い)→±3～5未満
- ◇高い(低い)→±5～7未満
- ◇相当高い(低い)→7ポイント以上



## 学力を高めるための取組み

本市では、夏季休業中における児童の家庭学習習慣、学力の基礎・基本を定着させるため、学習サポート教員(教員免許を有し、授業における担任の補助などを行う教員のことで、市が採用している方を言います)による『夏休みやさしいサポート教室』を実施しています。今年度の夏季休業中も、福祉センター・上芦別小学校を会場とし各2日間行われました。

『やさしいサポート教室』では、英語に慣れ親しんでもらうために、芦別市国際交流員のデミアン先生による、ゲームを交えた英語教室が各会場で行われ、参加した子どもたちに好評でした。

また各小中学校でも夏季休業中に『補充的・発展的な学習会』を開催し、学力向上を図っています。

芦別小学校・上芦別小学校では教員のほか、高校生、大学生がボランティアで学習指導を行ってくれました。この取組みは冬季休業中にも行う予定です。



やさしいサポート教室

英語を使ったゲームの様子

高校生・大学生ボランティア

